



パキスタンのパンジャーブ州（Muzaffargarh地区）で、腰の高さまでつかった水をかき分けて避難する被災者（8月11日）
©Reuters / Adrees Latif

パキスタンの洪水被害 ——生き残った家畜の飼料が緊急に必要

7月下旬に大規模な洪水の被害に見舞われたパキスタンの被災地では、約70万haに及ぶ成育中の作物が水の下に沈み、多くの地域で作物が全滅しました。これに伴い食料価格も上昇し、地元の人々の食料安全保障が脅かされています。洪水はまた、同国で家畜数が最も多い地域に被害を及ぼしました。人口の75%が農業で生計を立てている同地の人々にとって、家畜は食料や動力源であると同時に、重要な換金源ともなります。被災後は家畜を伴って避難した人々が多くみられましたが、実際には多くの家畜を残さざるを得ず、失われた家畜は家きんを含めると数百万にのぼります。洪水で飼料が失われたなかで、生き残った家畜をどのように養っていくかが、大きな

課題となっています。

FAOは、160万ドルを動員して2万5,000世帯に種子や肥料、農具などの農業投入財を提供したほか、家畜飼料とワクチン調達のために140万ドルの資金を動員するなど、支援を続けています。（7/22、ローマ）

関連ウェブサイト

Agriculture, food security & FAO's response in Pakistan : www.fao.org/emergencies/country_information/list/asia/pakistanfloods
Livestock emergency guidelines and standards : www.livestock-emergency.net
FAO update on situation in Pakistan (10 August 2010) : www.fao.org/fileadmin/templates/tc/tce/pdf/Pakistan_Update_Agriculture_2.pdf
Q&A : Why rehabilitating agriculture and the food production sector is crucial : www.fao.org/fileadmin/user_upload/newsroom/docs/pakistan_qa.pdf
FAO日本事務所：プレスリリース：パキスタンで何百万もの家畜が死亡・損失の危機に瀕している : www.fao.or.jp/media/press_100820.pdf

Contents

Top -----

パキスタンの洪水被害

Articles -----

小麦生産の見通しを下方修正
リベリアのコメ増産に向けて
山火事の監視システム開設
マダガスカルの農業を脅かす砂漠バツタ
栄養不良と闘うスビルリナ

Perspectives ---

今月の視点
ジェンダーと土地へのアクセス

Activities -----

世界食料デー月間
セミナー
関連イベント

Info -----

今後の主な活動予定
世界食料デー月間2010

FAO
Newsletter

Oct. 2010
vol.55

小麦生産の見通しを下方修正

——しかし在庫は依然として高水準

FAOは、2010年における世界の小麦生産の見通しを、6月に報告した6億7,600万トンから6億5,100万トンに下方修正しました。これは壊滅的な干ばつが続いたロシアでの作物被害や、カザフスタン、ウクライナでの生産低下、さらに小麦の主要生産国であり輸出国でもあるカナダで予測される生産減により、世界の小麦供給への懸念が生じているためです。小麦の国際価格も6月以降50%以上急騰しており、2007-2008年の食料危機の再来を懸念する声が高まっています。しかしFAOは、過去2年の記録的な豊作のおかげで世界の在庫は十分満たされており、また過去の危機の背後にあったマクロ経済環境などの外的要因は、今のところ脅威にはなっていないとしています。ただし、ロシアで干ばつが続けば、同国における冬期作付けに問題が生じ、2011-2012年の世界の小麦供給に深刻な影響を及ぼす可能性もあり、FAOは、厳重な監視を続けています。(8/4、ローマ)

関連ウェブサイト

World food situation : www.fao.org/worldfoodsituation

FAO日本事務所：プレスリリース：小麦生産の見通しを下方修正するも供給は十分とみなす : http://www.fao.or.jp/media/press_100804.pdf

2010年の小麦生産は減少すると予想される ©FAO / Danfung Dennis

リベリアのコメ増産に向けて ——収穫後の管理改善や低地利用を

リベリアでは、ポストハーベストロス[※]によって、収穫されたコメの半分が失われています。一方で、国土の5分の1を占める低地でのコメ生産の可能性が期待されています。低地では二期作、三期作が可能のため、高地に比べて8-9割の増産が可能とされています。FAOは、コメ輸入依存からの脱却を目指す同国政府とともに、生産、加工、保存技術の改善や低地栽培に対する技術支援を行っています。(8/25-26、タッピア・モンロヴィア・ローマ)

※ 害虫や腐敗が原因となる収穫後の損失

関連ウェブサイト

EU Food Facility : ec.europa.eu/europeaid/how/finance/food-facility_en.htm

Liberia, country profile : www.fao.org/countryprofiles/index.asp?lang=en&ISO3=LBR



GFIMSによって、各国は火事のホットスポットをほぼリアルタイムで検知できるようになる

©FAO / Florita Botts

山火事の監視システム開設 ——リアルタイムの検知が可能に

FAOは、山火事の情報提供とリアルタイム監視を行う「世界山火事情報管理システム (GFIMS)」を開設しました。これはメリーランド大学と共同で開発されたポータルサイトで、NASAの衛星を使って火事の発生を検知し、2時間半の時差でオンライン上に地図化するものです。従来はデータ源がさまざまで情報が断片的だったため、正確な分析や傾向の把握が困難でしたが、GFIMSによって、統合された情報システムが可能となりました。利用者はメールアドレスを登録することで、特定の地域における山火事の警告をE-mailで受け取り、詳しい情報を、Google Earth/KML filesを含む複数の形式でダウンロードすることができます。火災管理者や消防活動、農業、天然資源モニタリングに関わる人々に活用されることが想定されています。言語は英語、仏語、スペイン語の3カ国で、登録料は無料です。(8/11、ローマ)

関連ウェブサイト

Global Fire Management System (GFIMS) : www.fao.org/nr/gfims

Nasa's MODIS Rapid Response System : rapidfire.sci.gsfc.nasa.gov

FAO Natural Resources Management and Environment Department : www.fao.org/nr

FAO Forestry Department : www.fao.org/forestry

Website on Fire Management : www.fao.org/forestry/firemanagement

マダガスカル農業を脅かす 砂漠バッタ

マダガスカルで砂漠バッタの群れが形成され、通常とどまっている南西部から、東部や北部へと広がりを見せています。砂漠バッタは通常は個体で成育しますが、集団の密度が一定限度に達すると、個体の化学物質が変化し、群れで行動するようになるだけでなく、群れの食事や繁殖に必要な食物を求めて1日100 kmの移動が可能となります。平均的な群れのごく一部でも、1日に消費する食料は2,500人分にのぼり、作物が食い荒らされれば農村地帯の46万人が危機にさらされます。現在は繁殖には適さない乾燥・冷涼な気候であることから、FAOは、繁殖が懸念される10月の雨期までに生育を食い止めるべく、防除活動を行っています。(8/12、ローマ)

関連ウェブサイト

FAO's work on migratory pests : www.fao.org/agriculture/crops/core-themes/theme/pests/migratory-pests
FAO Locust Watch - Desert Locusts : www.fao.org/ag/locusts
Locust Watch - Locusts in Caucasus and Central Asia : www.fao.org/ag/locusts-CCA

マダガスカル移動性バッタの群れ。Menabe地域にて(2010年5月初旬) ©FAO/M. Tsitohaina Andriamaroahina



栄養不良と闘うスピリナ ——チャド女性の収入創出にも期待

西アフリカのチャドで、スピリナの生産がFAOの支援を受けて拡大しています。スピリナは、タンパク質や鉄分などの栄養素を豊富に含んだ藻の一種で、伝統的に脆弱な女性が採取を行い、これをこしたものを砂地の上に広げて乾かします。2007年から始まった支援プロジェクトでは、作業をより効率的・衛生的に行い、加工して市場に持ち込むまでのノウハウを提供し、国内の薬局等を通じた販売によって約7万5,000ユーロ相当の収益を生み出した。ただし、先進国などへの市場拡大には、更なるテストや国際認証の取得が必要です。(7/29、ローマ)

関連ウェブサイト

The Future is an Ancient Lake : www.fao.org/docrep/010/y5118e/y5118e00.htm
FAO Plant Production and Protection Division : www.fao.org/agriculture/crops
FAO-EU Partnership : www.fao.org/europeanunion

今月の視点

ジェンダーと 土地へのアクセス

農村地域において、土地は最も基本的な生産手段で、家族を養うために必要不可欠な資源です。しかし、多くの国では、土地へのアクセスについては著しい男女間格差が存在し、女性を世帯主とする家計は不安定な状況に置かれています。農業センサス・データの示すところでは、世界全体で、土地所有者のうち女性は2割以下であり、特に、西アフリカ、中部アフリカ、近東・北アフリカでは、その比率は1割以下です。

2007-2008年の食料価格高騰の際にも、最も脆弱であったのは、女性を世帯主とする家庭であり、飢餓・貧困の削減を進める上で、女性の土地へのアクセスを改善することは必要不可欠です。1990年代以降、各国において、女性の土地へのアクセスを改善するための法制度改革が行われていますが、実際には、必ずしも効果的に実行されているわけではありません。社会の構成員の意識改革を促す取り組みが必要です。また、土地へのアクセスと併せて、土地を効果的に利用することに関する女性の能力の向上が不可欠です。資金供与、農業技術普及、農産物のマーケティングなどの面での支援が必要です。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

関連資料 : 「Gender and Land Rights-Policy Briefs」
FAO, 2010
www.fao.org/docrep/012/al059e/al059e00.pdf

Activities

世界食料デー月間

8月19日、「世界食料デー月間2010 食料問題を考えるシリーズ」第2回セミナーが開催され（FAO日本事務所・JAICAF共催）、FAO中近東地域事務所で自然資源（水資源）開発・管理を担当している阿部信也氏が、食料の確保を輸入に依存している北アフリカ・中東地域の食料問題について、水資源の現状と気候変動への課題の点から講演を行いました。大学生からNGO/NPO、民間企業の方まで、約70名の幅広い参加があり、講演後の質疑応答では、政府の取り組みやFAOの活動、水資源開発や農業生産の今後の可能性、この地域に住む人々の食料問題に対する危機意識などについて、多くの質問が寄せられました。

関連ウェブサイト

世界食料デー月間2010：www.worldfoodday-japan.net/



講師の阿部氏 ©JAICAF

セミナー

9月3日、FAO経済社会開発局貿易市場部次長のデービッド・ハム氏を迎え、講演会「最近の開発途上国農業への海外直接投資の動向について」が行われました（政策研、FAO日本事務所共催）。講演では、メディアのセンセーショナルな見出しによる扇動や、昨今の農業投資の長所と短所が紹介されたほか、2年前の食料価格高騰後の土地収奪傾向について、世界市場が機能していない、という国際貿易への信頼失墜も一因である、との指摘がなされました。ハム氏はまた、責任ある農業投資のための任意原則策定について説明し、関係者との協議を今後も深め理解を広めることが、原則の認識浸透、ひいては農業投資増加の一策である、

と強調しました。酷暑の中にもかかわらず、70名の参加がありました。

関連ウェブサイト

FAO日本事務所：FAO日本事務所発ニュース：www.fao.or.jp/news02.html



講師のハム氏 ©FAO/LOJ

関連イベント

8月20日-22日、アジア学院那須セミナーハウスにて、ICFによるファームキャンプが行われました（FAO日本事務所・ボーイスカウト神奈川連盟・ガールスカウト日本連盟神奈川県支部後援）。7月27日の事前研修では宮道FAO日本事務所広報官のレクチャーを受け、飢餓や栄養不足に悩む世界の食事情について学び、当日は「食と命」をメインテーマに、小学3年生から高校3年生までの11名の参加者が、さまざまな体験活動を行いました。アジア学院の留学生の方々と、朝夕の定例作業として牛舎、豚舎の清掃や餌やりを行い、畑では野菜がよく育つように草取り、畝作り等を体験しました。私たちの命を育むために動植物の大切な命をいただいていることに気がつき、自分たちだけでなく世界にも目を向け「食」について考える機会になりました。（ICF 石原宏子）



タロイモの定植作業の様子。全部で50株を植え付けた ©ICF

今後の主な活動予定

2010.10.2-3

グローバルフェスタ JAPAN 2010

場所：東京/日比谷公園
グローバルフェスタ JAPAN2010 実行委員会主催
FAO日本事務所ブース出展

2010.10.13

テレフードチャリティコンサート2010 「大地の詩」

場所：神奈川/横浜みなとみらい大ホール
FAOコンサート実行委員会、FAO日本事務所主催

2010.10.11-16

The 36th Session of Committee on World Food Security (CFS)

2010.10.16

世界食料デー

2010.10.16-17

よこはま国際フェスタ2010

場所：神奈川/象の鼻パーク・波止場会館
よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム主催
FAO日本事務所ブース出展

2010.10.29-31

食と花の世界フォーラムにいがた2010

場所：新潟/新潟コンベンションセンター
朱鷺メッセほか
食の花の世界フォーラム組織委員会ほか主催
30-31日にFAOパネル展「世界の食と農」を開催

世界食料デー月間2010

10月16日は「世界食料デー」。国内外で飢餓・食料問題に取り組む国際機関やNGO・NPOは、10月1-31日を「世界食料デー月間」として期間中にさまざまな取り組みを行います。詳しくは「世界食料デー月間」特設サイトをご覧ください。
www.worldfoodday-japan.net/



発行：(社)国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道 りか、Linda Yao (FAO日本事務所)

森 麻衣子、今井 ちづる (JAICAF)

デザイン：岩本 美奈子

News source：www.fao.org

この用紙は再生紙を使用しています

FAO Newsletter

Oct. 2010

vol.55